令和７年度第１回高砂市総合教育会議　会議録

令和７年４月１５日（火）高砂市総合教育会議を高砂市役所南庁舎５階大会議室において開会

出席委員

市長	都倉　達殊
教育長	玉野　有彦
委　員	吉田　美香
委　員	山名　克典
委　員	神尾　信作
委　員	川本　晃功

出席事務局職員

理事	荻野　章広
技監	野々村　正信
総務部長	川平　貴儀
総務部総務室長	菅原　守弘
総務部総務室総務課長	十倉　正佳
教育部長	木田　匠
教育部教育推進室長	吉金　仙人
教育部学校教育室長	平山　健二
教育部教育推進室教育総務課長	竹内　禎之
教育部教育推進室教育総務課主幹	石原　里美
都市創造部長	井上　陽介
都市創造部都市住宅室長	石原　慎一
都市創造部都市住宅室都市計画課長	中西　裕紀
都市創造部都市住宅室都市計画課主幹	吉田　浩司

傍聴者

４名

本日の議事

（１）　播磨臨海地域道路に伴う学校施設について

（２）　その他

○事務局
　定刻になりましたので、これより令和７年度第１回高砂市総合教育会議を開会いたします。
　まず初めに、市長から御挨拶をお願いいたします。

○都倉達殊市長
　はい。皆さんこんばんは。
　令和７年度第１回目の高砂市総合教育会議の開催に当たり、委員の皆様には御多忙の折、また夜間の開催、加えて急な御出席のお願いにもかかわりませず、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。
　改めて委員の皆様方には、平素より高砂市の教育行政、また、高砂市のこどもの健やかな成長に御尽力を賜っておりますことにお礼を申し上げます。
　皆様方には今年度も昨年同様、闊達な議論をいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。
　さて本日は、播磨臨海地域道路に伴う学校施設について、説明をさせていただきます。
　皆様方には御意見をいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○事務局
　ありがとうございました。
　それではまず、本日の資料確認をお願いいたします。
　まず本日の会議次第、その次に、本日の会議出席者、その次に、高砂市総合教育会議資料として、１枚の紙をお付けしております。その下に冊子等で３部、まず一つ目が播磨臨海地域地域道路についてというもの、二つ目に青色の字で書いてあります、播磨臨海地域道路都市計画に係る説明会のお知らせ、最後にホッチキス止めの播磨臨海地域道路に伴う学校施設について、を置かせていただいております。
　不足等ございませんでしょうか。
　さて令和７年４月１日付けで、教育委員に変更がございましたので、改めまして、本日の総合教育会議の構成員を御紹介させていただきます。
　まず、先ほど御挨拶いただきました都倉市長です。

○都倉達殊市長
　はい、よろしくお願いします。

○事務局
　続きまして、玉野教育長です。

○玉野有彦教育長
　どうぞ、よろしくお願いいたします。

○事務局
　続きまして、教育委員の山名委員です。

○山名克典教育委員
　よろしくお願いします。

○事務局
　続きまして、教育委員の吉田委員です。

○吉田美香教育委員
　よろしくお願いいたします。

○事務局
　続きまして、教育委員の神尾委員です。

○神尾信作教育委員
　よろしくお願いします。

○事務局
　続きまして、令和７年４月１日より教育委員になられました、川本委員です。

○川本晃功教育委員
　はい、川本です。これからよろしくお願いいたします。

○事務局
　以上が、本日の総合教育会議の構成員の皆様となります。
　本日は全ての構成員の皆様に御出席いただいております。なお、事務局の出席者の紹介につきましては、出席者名簿をもって代えさせていただきます。
　それでは、高砂市総合教育会議運営要領第４条の規定により、市長が議事進行を行うこととなっておりますので、これからの進行は市長にお願いいたします。市長、よろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長
　はい、それでは次第に従い、議事を進めたいと思います。
　まず、議題１「播磨臨海地域道路に伴う学校施設について」を議題といたします。
　まず、資料の説明をお願いします。

○吉田都市創造部都市住宅室都市計画課主幹
　高砂市都市創造部の吉田と申します。よろしくお願いします。着座にて資料の説明をさせていただきます。
　まず、Ａ２用紙の播磨臨海地域道路についての資料をご覧ください。
　こちらの資料は、播磨臨海地域道路本線について、住民説明会時に配布したものになります。高砂市においては、令和５年１１月に住民説明会を５会場で開催し、延べ 397 名の参加がありました。この住民説明会は、県と市の共催で開催し、県が都市計画決定する播磨臨海地域道路本線について説明をいたしました。説明会では、資料のとおり、播磨臨海地域道路の果たす役割、これまでの経緯、計画路線の概要、ルート・構造、今後の予定を説明いたしました。
　それでは、播磨臨海地域道路について説明いたします。
　「１　はじめに」をご覧ください。播磨臨海地域道路は、播磨地域を東西に結ぶ新たな高規格道路で、全体計画は、神戸市から太子町までの約５０キロメートルです。このうち、神戸市西区の第二神明道路から姫路市広畑までの約３２キロメートルの区間について、都市計画の手続を進めています。
　「２　播磨臨海地域道路とは」をご覧ください。播磨臨海地域では、国道２号バイパスや国道２５０号に交通が集中し、慢性的な交通渋滞や交通事故の発生が課題となっています。さらに、臨海部における物流の効率化や南海トラフ巨大地震等への防災対策が求められており、第二神明道路や国道２号バイパス等と新たな道路ネットワークを形成することで、「製造業の活性化、投資促進」、「観光周遊の促進」、「交通事故の削減」、「災害に強いまちづくり」の四つの整備効果が期待できます。
　次に「３　計画路線が果たす役割」について、一つ目は、「製造業の活性化、投資促進」であり、播磨臨海地域から阪神方面への連絡時間短縮や産業交通と生活交通との問題による渋滞を緩和し、物流の効率化が図られることで、製造業の活性化や地域への投資促進に寄与します。

二つ目は、「観光周遊の促進」であり、計画路線への産業交通への転換を図り、国道２号バイパスを利用する観光交通の速達性、定時性向上に寄与します。
三つ目は、「交通事故の削減」であり、国道２号バイパスの渋滞緩和による、追突事故の削減に寄与するとともに、南北方向の道路の事故削減にも寄与します。
四つ目は、「災害に強いまちづくり」であり、災害時に機能する新たなネットワークを形成し、交通規制や通行止めリスクの低減に寄与します。
次に「４　これまでの経営について」説明いたします。平成２５年から平成２８年にかけて、国土交通省が優先区間の絞り込み手続を行い、緊急性が高く整備を優先的に取り組む区間を検討し、第二神明道路から姫路市広畑までの約３２キロメートルの区間を、当面、都市計画及び環境影響評価を進める区間に決定しました。
その後、平成２８年から令和２年にかけて、国土交通省が計画段階評価手続を行い、複数案の比較評価を行うとともに、事業の必要性及び事業内容の妥当性を検証し、令和２年６月に近畿地方小委員会において、４つのルート帯案から、内陸・加古川ルートを設定いたしました。
令和４年１１月には国土交通省から都市計画素案の元となるルート計画案が、兵庫県と神戸市に提示されました。それを踏まえて、県と沿線市町が連携し、国土交通省の協力を得ながら、都市計画の素案の検討を進めてまいりました。
資料をめくっていただいて、「５　計画路線の概要」、「６　計画路線のルート・構造」について、始点は神戸市西区の明石西ジャンクション、終点は姫路市広畑の広畑インターチェンジとなります。延長は約３０キロメートル、次に車線数は片側２車線の４車線で、下の概要図のとおり、高砂市内においては３か所のインターチェンジが設置され、交通の利便性の向上が期待できます。詳しいルート図は、別添の図のとおりとなっております。
仮称高砂東インターチェンジは、ハーフインターチェンジで神戸方面と往来することができます。仮称高砂西インターチェンジは、ハーフインターチェンジで姫路方面と往来することができます。仮称伊保インターチェンジは、ハーフインターチェンジで神戸方面と往来することができます。姫路方面には、姫路市の仮設大塩インターチェンジにて姫路方面と往来することができます。高砂小中学校との位置関係は、別途説明いたします。
次に「７　今後の予定」について、今後の流れの図の手続により都市計画決定を行っていきたいと考えています。左の都市計画手続については、現在説明会等の開催が終わった段階であり、今後も引き続き都市計画の検討を進め、再度皆様の御意見を伺うために、県が公聴会を開催し、都市計画案の作成を経て、公告縦覧を行い、都市計画の手続を進めています。右の環境影響評価手続については、調査、予測評価を行った結果を取りまとめた準備書の作成中であり、準備書の縦覧期間中に、準備書の内容に関する説明会を開催する予定です。
次に、資料「播磨臨海地域道路都市計画に係る説明会のお知らせ」をご覧ください。青色の資料になります。こちらの資料は、播磨臨海地域道路のアクセス道路や関連都市計画施設、道路や公園等について、住民説明会のときに配布したものとなります。
令和６年８月から、第２回目の住民説明会を５会場で開催し、延べ３０２名の参加がありました。この住民説明会も前回と同様に、県と市の共催で開催し、アクセス道路や関連都市計画施設について説明いたしました。具体的には資料を開いていただいて箇所図をご覧ください。赤色が本線ルートで、青色が変更となる都市計画施設です。新たに計画する高砂西インター線などのアクセス道路や向島公園や高砂公園などの公園施設、高砂浄化センターなどの下水道施設などについて説明いたしました。なお、第１回目、２回目のどちらの説明会についても、都市計画法で定められた説明会となっております。
２回の住民説明会を開催いたしましたが、住民の方から、聞きたいことが聞けなかった等の意見があったことを真摯に受けとめ、本市では、沿線自治会等を対象に、より丁寧に説明するため、個別説明会及び相談会を開催することとしました。
この個別説明会及び相談会では、住民の皆様の不安や疑問が解消できるように、少人数のグループでの座談会形式での相談会を行い、個別の疑問にもお答えし、丁寧な対応を行ってまいりました。１６回の個別説明会及び相談会を開催し、延べ３７７名の参加がありました。
また、高砂小学校育友会、高砂中学校ＰＴＡにおいても個別説明を行い、高砂小学校、中

学校について質問をいただき、説明をいたしました。
　続きまして、「播磨臨海地域道路に伴う学校施設について」の資料をご覧ください。この資料は、個別説明会の資料のうち、高砂小学校、中学校に関連する箇所を抜粋したものです。２ページをご覧ください。ルート案についてです。高砂町付近のルート案の図となっております。赤色で示す計画路線が公共空間を通過していることが分かります。高砂小学校、中学校の敷地にかかるルートとなっています。
　まず、高砂小学校、中学校付近のルート選定の考え方について御説明いたします。高砂町臨海部は、大規模工場や住宅地により市街地が形成されており、ルート選定が非常に難しい地域です。支障となる家屋数を極力減らすため、公共空間を可能な限り活用し、東西を最短で結ぶルートを選定しています。
　このことから、高砂小学校、中学校の敷地をやむを得ず通過いたしますが、総合的には現在のルートが最適だと考えています。また、残地活用の観点から、学校敷地の極力、北側を通過するように配慮しております。
　次に３ページをお願いします。新たな学校づくり推進計画との関係について、上の資料の左側に示すとおり、令和６年からは、公共施設の最適化、見直し検討及び新たな学校づくり推進計画の策定が開始されています。これらの公共施設の最適化検討及び新たな学校づくり推進計画と密に調整を図りながら、新校舎の更新計画を決定し、新校舎の設計新築を進めています。高砂小学校、中学校の今後については、少子化及び校舎の老朽化が進んでいることから、現在、高砂市新たな学校づくり推進計画の策定を行っております。
　４ページをご覧ください。この高砂市新たな学校づくり推進計画は、高砂小学校、中学校のみならず、市内にある市立小学校及び市立中学校全てを対象にしています。公共施設全体最適化計画及び新たな学校づくり推進計画と密に調整を図りながら、高砂小学校、中学校の機能を確保してまいりますと、説明会では説明しております。
　次に環境への影響についてですが、下段のスケジュールの青色の矢印のフローをご覧ください。播磨臨海地域道路は、環境アセスメント対象事業であり、排気ガス、騒音、振動、日照などの影響について、調査・予測・評価を行った結果を取りまとめた準備書を現在作成中です。
　今後、県において縦覧時に説明会が開催される予定です。その後、説明会で出された意見書、評価書が作成され、県の都市計画審議会を経て、評価書が公告・縦覧される見込みです。また、今後の都市計画手続のスケジュールについては、市が素案の申出を県に行い、県が公聴会を開催する予定です。その後、県が都市計画案を作成し、公告・縦覧の後、県の都市計画審議会を経て、都市計画決定、告示・縦覧となります。なお、県の都市計画決定告示・縦覧、環境影響評価の公告・縦覧までは、今からおおむね２、３年を要する予定となっております。
　説明のほうは、以上です。

○都倉達殊市長
　はい、説明のほうは終わりましたが、皆様方から御意見を伺う前に、私の考え方をまず述べさせていただきたいと思います。
　今の説明と重なる部分はあるのですが、播磨臨海地域道路については、播磨臨海地域を東西に結ぶ新たな路線で、国道２号バイパスや国道２５０号の渋滞緩和、災害時等における代替路の確保とともに、ものづくり拠点である播磨臨海地域の発展に寄与する高規格道路でございます。地域の課題である「慢性的な渋滞とそれに伴う経済への影響」、「多発する交通事故」、「災害リスク」等を踏まえると、本道路を早急に整備する必要があると考えております。
　ルート選定の考え方につきましては、高砂町臨海部は、大規模工場や住宅地により市街地が形成されており、ルート設定が非常に難しい地域でございます。支障となる家屋数を極力減らすために、学校や公園などの公共空間を可能な限り活用し、東西を最短で結ぶルートを設定しており、ルートが高砂小学校、中学校の敷地一部にかかっています。このことについて、個別説明会におきまして住民の皆様から高砂小学校、中学校がどうなるかという質問をいただいており、市の回答といたしましては、敷地内での建て替えの選択肢がなくならない

ように、極力敷地の北側を通過するよう配慮していますと説明をさせていただいているところでございます。

今後、播磨臨海地域道路と「公共施設全体最適化計画」及び「新たな学校づくり推進計画」と密に調整を図り、高砂小・中学校の機能を確保してまいりたいと考えております。

また、兵庫県において環境影響評価の準備書を作成中でありますが、市においては、工事中の周辺環境への影響についても事業者に対して配慮するよう求めてまいりたいと考えております。

それでは、委員の皆様方から御意見を伺いたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○山名克典教育委員

道路のことに関してはインフラとして、実際これは先ほどの説明会、勉強会のときも決定したことやから、反対もないんだろうということは、お聞きしましたけども、個人的には教育環境に悪影響を及ぼすことだけは避けてほしいなと思います。実際には、高砂小学校、中学校を通ることもありますけど、これは確かに校舎の老朽化もあって、バーター取引じゃないですけども、今度それに関して新校舎を建てていただけるという形であれば、その建てるにあってはいろんなことを検討させてもらって、それでいけばいいかなということは思いますし、ただ、この設計この内容も、説明受けた時には、高架であるということがあるとき、そのまちの中を高架の高速道路が通ったとき、生活をしている住民の、いわゆる分断化が起こるということになりますので、いわゆる盛り土でなかったっていわゆる高架だったって、大きな道路があってそれで、その道路を挟んでると、行き来がなくなったり、あるいは景観そのものがなくなってきたりすると、やはりどうしても、それぞれのお互いの道路を挟んでの住民の交流がやや悪くなるんじゃないかなということは懸念してます。

それで、それともう一つ、いわゆるこどもにとって、この工事期間が２０年３０年なったときに、実際建った時には、公共環境としては、海が見えない山が見えないと、いろんな高砂のいわゆる景観を売りにしているような形として、昔の建物があってどうのこうのなった時に、そこに高速道路が通ったとき、高い高速道路が通ったとき、まちの景観としては損なわれることがやはり十分考えられると思います。だからそれに関しては、どんなふうに考えていくんかなということです。

それで、こどもにとって、教育委員ですので教育のことについて言いますと、やはりそういうふるさとを愛する気持ち、いわゆるまちを愛する、自分の住んでたところに誇りを持ちたいといったとき、それなりの景観があって、海あって山あってそれの、今は砂浜はなくなってますけども、結局、それなりのことが高砂の誇りだったという、そういう古い街並みがあるとか、いわゆる地域の住民のコミュニティができてるというのが、そういうのが分断されるようなことがあってはならないと思います。それでこどもの教育に関して、やはり工事が始まったときの、その景観が悪いような状態で工事がずっと進んでいくと、いわゆる工事期間が、もし二、三十年だったとしたら、生まれたこどもが、いわゆる成人するまでの間にずっと工事が続いていったりすることになると、そういう街中で、工事の進んでるような街中で育ったとき、その子にとってやね、その教育環境はどんなんだろうということを思います。よい教育をするのにあって、よい教育環境作ってあげたいと思いますので、先ほども話あったんですけども、工事が行われてるような近隣の市の、道路ができる拡張するに当たっては、立ち退き云々でいろいろ立ち退いたところ、あるいは廃家みたいな形で崩れ、幽霊屋敷みたいに建ってるそんな形が、この高砂のこのインフラで、これが作られるときにも、そんな形があって、非常に景観を損ねるような形、もう住民にとって、このまち、何とかしてくれというな形になるような、教育環境にはしてほしくないんで、それをやはり工事進んでる間も、やはり進んだところをきちんとそれなりの、休んでる休地とかそういうところ、有効利用しながら、日々それなりのこどもたちが、自分のまちを誇りに思えるし、そのまちを利用していい状態だったということを工事するに当たっても、非常にいい進み方があった、いわゆる誇れるような、こういう形でまちが変わっていくんだという形を、実感できるような、そういう環境を作ってほしいと思うんです。そうでないと、もう本当に汚い汚い道路、それをずっと生まれてから、高校卒業するまで、それなりに工事が終わらなかった形になっ

たりすると、結局は、教育環境として、いかがなもんかなと思うんで、そういうことがないようにやっていただかないと、インフラのためとは言いつつ、こどもたち、成人にとってもやはり、生活環境、あるいはそれなりの生涯活動に関しても、やはり、めいってしまうような形にはなってほしくないんで、やはり工事をしながらも、やはりそこを利活用しながら、いわゆる一歩進んだ前向きな形で、その建築に関しても、その間の間、結局住民も、あるいはこどもたちも結局、いい状態だったということをね、作る施策、そういうのやってほしいです。やはり作るのは作ると言われれば、しゃあないんでしょうけど。やはり作ってる間の状態、それ作り上げた状態の中での、この住民の分断とかそんなんが起こらないような形をやっていただきたいと思います。

○都倉達殊市長

はい。今、山名委員さんの方からお話ありましたように、特にですね、工事着手前の環境影響調査、それと工事期間中のいろんな騒音、振動であるとか、教育環境の中での配慮、そういったことについては、先ほど私の方からもお話させていただいたように、やはりその着工するに当たっては、その事業者の方に対して、いろんな対策、それと、まち周辺のですね、広く長く、工事箇所が伸びていきますので、そのあたりについては、本当に丁寧に、地域住民の方々にも御説明をさせていただきながら進めていきたいというふうに考えております。

またですね、将来のまちづくりっていうことについては、今後やはり、住民の方々に対しても、このように学校施設周辺の環境整備、そういったことをですね、丁寧に御説明していきたいなと考えておるところでございます。

補足あったら、担当の方から何か。

○石原都市創造部都市住宅室長

都市住宅室長です。先ほどお話いただきました教育環境の悪影響についてということなんですけど、先ほど市長からも説明がありましたが、環境影響評価ということで、工事中におきましても環境基準を満たすような検討を行ってまいります。

それから、まちを分断するんじゃないかということなんですけど、確かに高架の構造物ができますんで、下部は道路、今ある道路が行き来できるような作りにはするんですけど、影響がないとはいえないと思います。なので、それがいかにどこにあるというところを検討していかなければいけないとは思ってます。

この話と関係してきますけど工事中のお話ですけど、２０年３０年先、時間的にはかなり相当、着工するのは先のことと思われます。先ほど市長が申しましたように、工事中の配慮っていうのを事業者に求めていく必要があると思います。相当先の話ですんで、今の段階で何ができるかっていうのは申し上げられないんですけど、今、都市計画の段階ですんで、その時点までに、市としてソフトとハードとか合わせてどういうことができるのかっていうのを検討していきたいと、必要があると考えております。

○都倉達殊市長

はい。他の委員の方から何かございましたら。

○神尾信作教育委員

はい。僕、高砂中学校に１１年、９年と２年で１１年間勤務してたんで、特にこのニュースが入ったときに、気になってました。なぜそんなところ通るねん、ということをまず思ったんですけど、勉強会とか市長さんのお話を聞いて、苦渋の選択だったのかなと、少し納得できたような気もするんですが、私の経験からいいますと、高砂中、小ってのは、１校１小１中で、コンパクトで、特に隣接してるという地理的にね、すごくいい関係にあると思うんですね。

ですから、このパンフレットにも、先ほど市長さんの説明にも、「公共施設全体最適化計画」及び「新たな学校づくり推進計画」と密に調整を図り、高砂小・中学校の機能を確保するというふうにあるんですが、もちろん確保もしていただきたいし、ちょうどいいタイミン

グで、校舎の老朽化とかいろんな教育的なことが、教育のことが、すごい動いている今だからこそ、確保プラスこれをうまく使って、もう少し発展、改善、向上の方にまで目を向けるような計画を立てていただけたら、すごく嬉しいなと思いますんで。例えば、高砂小・中の関係性ということで、いいなと思うのは、本市がずっと教育の一つの大きな柱として小中一貫教育というのを掲げてます。で、その本当にモデル校になってるのが高砂小・中なので、これは一番大きなことは職員の努力もあるんですけども、地理的なことも大きな要因だと思います。で、そういうことが地理的なことが大きな要因でありながら小中一貫教育がしっかりできている。

あと、僕の経験で言いますと、中学生が卒業式を迎えて、卒業式終わって出て行くときに、花道をつくるんですね１年生が。で、そこを通って拍手で出て行くんですが、高砂中学校３年生は卒業していくと花道に出ていくんですけども、ちょうど高砂小学校の生徒たちが、校舎から身を乗り出して、中学３年生の生徒を拍手したりして、温かい送り出しをするんですよね。そういうのを見たときに、ああ、すごくいいなと思って。そういうところですから、よく言われる、中１ギャップなんか発生もしにくいと思います。そういういろんな環境面で非常に教育環境の中でいい部分をたくさん、今持ってるので、それをもう少し、改善、発展できるような形のものが、この際、そういうことをしていただければ、教育環境さらによくなるかなと思ってます。

それからもう少しだけですけども、あと先ほどから騒音とかいう話が振動とか出てきてますけども、１０年程前に耐震工事がありましたよね。耐震工事の時も、僕おったんですけども、耐震工事の時は業者さんがやっぱり大きな音が出るところは、土曜日だとか、こどもたちがいない時間帯にやってくれてるようなそういういろんな工夫をしてやってくれてたんですけども、今回はやっぱり、学校だけじゃなくて住民の方もいらっしゃるから、じゃあ土曜日にやりましょうとかそういうわけにはいかないでしょうから、本当にいろんな防音とかそういう対策はあるんだと思うんですけど、本当に細かいところまでやっていただく。

あと、通学路も変わってきますから、やっぱり通学路の安全もしっかり確保していただくようなことをやって、そういう細かい部分もやっていただけたら、もっと住民の皆さんとか我々ちょっと関わった者もちょっと安心できるかなと、そんな思いをしています。以上です。

○都倉達殊市長

はい、ありがとうございます。小・中学校の、今高砂小・中学校の将来の、今の現状の魅力もさることながら、こどもたちのやはり教育環境の整備という観点で、教育長の方から何か未来に向けて、高砂小・中の何かお話あれば、お願いいたします。

○玉野有彦教育長

はい。ちょっとその辺を私が、神尾先生が高砂小・中愛が高いなっていうなことを言われたというふうに思うんです。私も長い間、高砂小学校にいましたので、その辺もちょっとこう、愛着いうか、発展、向上してほしいなっていう気持ちはあるのですが、今ここで、愛は語れるんですけども、どのような高砂小学校、中学校になってほしいっていうことにつきましては、新たな学校づくりの計画に則って、私の考えも出しながら作っていきたいかなというようなことを思いますので、今そのビジョン的なことを言うのはちょっと控えさせていただいて、ただ、ええ学校を作りたいなみたいなことは思っています。

○都倉達殊市長

はい、ありがとうございます。神尾委員の方から二つ目のやはり、工事期間中のいろんな対策、地域住民も含めてですけど、それは当然、やはりいろんな形、内容的にきちっと市民の方々が、安心して、工事期間中の対応については、説明をしながら、安全に進めていきたい、通学路も含めてですけど、そういうふうに考えております。

はい、川本委員。

○川本晃功教育委員

そうですね、同じ敷地で建て替えなのか、それか移転なのか、もうそれはもう、どちらも一緒だとは思うんですけど、小学校であったり中学校っていう学校っていうのは、こどもにとってはもうその時間全てだと思うんですね。それで、先ほど御説明いただいた安全であったりとか騒音であったりとかっていうのは、もう当然のことでクリアをしていただかないといけないかなと思うんですけど、先ほど、神尾委員言われてたみたいなそういった高砂小・中のそういった関係性の構築であったりとかっていうのも、行政の方々であったり先生の努力もあるかと思うんですけど、それはおそらく地域のコミュニティであったりとか、親とこどもとの関係性とか親同士の関係性とかっていうのが、おそらく起因しているものだと思います。それが、例えば、安全にできる静かにできるからといって、物理的にその分断がされるであったりとか、またそれまで今まで大事にしてた文化的なものであったり伝統的なものが、もし下支えがあったのであれば、そういったものもしっかりと見ていただいて、ブラッシュアップというのはなかなか難しいかもしれませんし、その２０年後３０年後に、私が先ほど言いましたが、こどもにとって学校が全てだっていうその価値が、まず変わってしまっている可能性もゼロではないんですけど、やはり今見える限りはですね、やはりそういったものを大切にしていこうというところで、何でしょう折衷案のところもあるかと思うんですけど、そういった未来にしていかなければならないことっていうのをまず一番に見ていただきたいなというのがあります。

○都倉達殊市長

はい、ありがとうございます。学校施設だけではなく、やはりもっと広くですね、高砂町全体のまちづくりについては、やっぱり行政側としてもですね、他の道路計画であるとか、駅の周辺整備も含めて、やはり将来に向けて、魅力あるまちづくりっていうのは作っていきたいなというふうに考えております。

吉田委員。

○吉田美香教育委員

はい。出来上がりが２５年後っていうことなんで、どんなことになってるのかがちょっと想像つかないんですけれども、それとあと、この道路に関しては、私は個人的にはできたら海通ってほしいなとか、地下にいってほしいだとかいう思いを持ってましたので、でも、こういう計画でいくっていうことであれば、せめて、２５年後すごい遠い先なんですけれども、楽しみに待ちたいなと思うんです。きっとこうよくなるなっていう思いを持って過ごしたいと思いますし、あとこどもたちも、こども議会のときにね、言ってましたよね、コミュニティはどうなるんですか、僕たちの家はどうなるんですかっていう不安な声を、出してましたので、やっぱりこどもがそう思うってことは御家族もそういう思いを持たれてるんだろうと思います。ですから、そういう思いにやっぱり応えていってあげないといけないと思うんですね。本当に我慢を強いるんだけど、こんだけ良くなるから、楽しみに待とうねって言えるような進め方をどうかしていただきたいと思います。ですから、例えばその、どうしても学校の中に、まだ分からないですけど、学校の中に高速道路が通るんであれば、逆に言うとそんな学校めったにないので、こどもにとっては、それがまた、自分たちにしかないっていうような思いを持てるような、何かしつらえ方というか、サプライズになるような、高架の下の使い方とかね、いろいろあると思うんです。ですから、楽しみになるように楽しみになるように持っていっていただけたらなと。こどもの思い出として、うちのまちは何かがれきの山だったとか、イメージとしてこどもって残ると思うんですよね。ですから、何かこう取り壊している解体作業のところしかイメージに残ってないとか、そういうことにならないように、何かこどもがワクワクしながら待てるような、万博会場もそうでしたよね。なんか、泥水がたまったような汚いところの映像ばっかり見せられてる時は全然ワクワクなかったですけど、出来上がりの会場の絵なんかを見ると、いいな行きたいなって思いが変わりますよね。何かこう、そういうふうに、絵を使ってでも何でもいいですから、こどもたちが楽しみに待てるように、市民の方々も、自分たちは我慢するけれども、こどもたちの将来に、いいまちになるんだという思いで待っていただけるような形に、工夫を凝らしていただいて、そして２５年も先ですから、今携わってくださってる皆さんが、これから携わる方々に

そういう何か思いをずっとつないでいっていただけたらと思います。はい、それがお願いです。

○都倉達殊市長
　はい、ありがとうございます。そうですね、吉田委員言われるように、今の段階で、将来２５年３０年先の、生まれてくるこどもたちもそうですけど、やはりまちのビジョンというものをきちっと示していく必要があるというふうに考えております。そこにやはり、播磨臨海地域道路ができることによって高砂市の活性化だけではなく、夢が持てるようなまちづくりをですね、進めていきたいなというふうにも考えております。
　はい、ほかございましたら。

○山名克典教育委員
　やっぱりずっと気になるのが結局、工事期間中の問題で、結局工事期間中に、いわゆる加古川の２号線の東に行く道の、いわゆる虫食い状態で、廃家みたいなもんが残ってたり、それなり、営業されてる家があったり、そういう形が何年続いて、この道が作られていくんだろうと。ただそういうときに、結局、地域の中で育ってるこどもたちが通学しながら、普段見てる、それを見て、いわゆる嫌な感じを持たないような形で、結局工事していくに当たって、やはり工事そのものが大事であって結局工事のその、ああいう加古川には悪いですけども、あんな雰囲気を持たさないような工事の仕方って、やっぱりそれで周りの環境の整備の仕方って、僕はやっぱりこれが市の責任やと思うんですよ、住民に対する工事をここを通してやるといって決めた以上は、市の責任としてやはり心の問題を、いわゆる嫌な感じを抱かないような形の、市がいわゆる住民に対しての啓発、アピールするとそれなりと住民に対するいろんなサービスをやっていって、それで将来これができ上がった時にはどうなってるかいう形、将来、僕的にはもう２０年３０年のうちに、あるかないか分からないと思ってますけど、それで最後残った、出来上がった時には、結局、やっぱり大きな万里の長城的な、結局そんな壁ができたような感じである感じだったとしたら嫌だなという気は、常にあるんです。これ本当に、自分の身近なところに海が見えてきてるようなところに大きな３０メートルもする橋ができて、高速道路を走ってるのを見るのもほら、横浜ベイブリッジみたいにやね、見るものがあったらいいかも分かりませんけど、うちの家から見たら多分３０メートルのごっつい橋がかかって、今西日も、そこから西日があがってきて、それもいいんかなと思うけどやはり、そういう、背の高い構造物に囲まれたような中で生活するのが本当に、やはり嫌な雰囲気がすごくしてるんで、そこをやはりいい方向に持っていくような形、それで、やはりそのネガティブな考えを払拭してくれるような形で、住民へのいろんなことをしていかなあかんし、こどもたちに特に、育っている間、小学校、中学校の間、ずっと工事中で汚いほこりまみれでねっていう感じの、そんなイメージ、高砂なんか育って、高校、大学行ってしたときに、高砂なんかもう帰りたくないわというような形にはならないような形の、環境づくり、それなりの生活基盤、美化きちんとした環境を作っていかないと、教育も成り立たないだろうし、なんぼ新しい校舎建ったって、いわゆる小中一貫どうのこうの言ったって、結局、はっきり何の意味もならなくなって、結局何だったんだろういうことになったらすごく嫌なので、その工事中からずっとやはり、工事そのものに対しての考え方、工事期間中の、結局景観、あるいはそれなりの保ち方、人々の気持ちをモチベーション持つような形いろんな形の、いい方向に動くような形の施策、あるいはそれなりの啓蒙をやっていただきたいと思います。それでないと、教育は成り立たないかなと。

○都倉達殊市長
　はい。言われるとおりで、行政側といたしましては、やはり住民の方々が安心できる生活環境、これをやはりきちっと守る必要があります。そこにはやはり工事期間中だけではなく、出来上がった後もですね、やはり騒音、振動であるとかそういったことが絶対起こらないような、やはり県の方にも、また事業者の方にも、要望しながらですね、進めていきたいというふうに考えております。
　ほか、何かありましたら。はい、どうぞ教育長。

○玉野有彦教育長

私、教育委員さんの話を聞いてて、こどもの情意面のこととか、こどもの未来のこととか、地域のコミュニティのことを語ってくださって、こどものために方向性はみんな一緒かなと思いながら、聞いてました。私もこどもの幸せになるような、よい学校ができたらなと、新しい学校ができたらなということを思っているんですが、よく現場の教員から言われるんですけども、一貫教育して、小学校、中学校つなぐカリキュラムを作るだけやったらあかんねんで、それをどのようにして作っていく、使って教育していくのが目的ですよっていうようなことを言われながら、そんな話を聞くんですけども、高速道路を作るだけではなくて、その作ることを元にして、何かまちが活性化するとか人の生活がよくなっていくような、仕掛けっていうのはあれやねんけども、そういうことを考えていってもらえたらありがたいなと。それがこどもたちの教育に、まちがよくなっていったら教育につながっていくかなというふうに思いますので、教育委員の皆さんの気持ちを最後市長にアピールさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

はい、ほかなければですね、私の方から、いろんな御意見本当にありがとうございました。冒頭に住民説明会、また個別説明会を行ってきましたというお話もさせていただきましたけど、これからもですね、やはり場面場面で丁寧に地域住民の方々に御理解いただけるように、御説明をさせていただきたいというふうに考えております。

この播磨臨海地域道路につきましては、都市計画手続を今現在進めているところでございます。今後高砂市が県に対しまして、ルートの素案の申出を行っていく予定でございます。スケジュールについても、いろいろ御説明させていただきましたけど、やはりこの市内全域を通過していく、この高規格道路になりますので、学校の施設を通過する高砂町だけではなく、広く、やはり高砂市民に対して、丁寧にまた説明会を開催しながら、御理解いただけるように努力してまいりたいというふうに考えております。どうもありがとうございました。

それでは続きまして議題の２ということで、その他として委員の皆様から何かございましたら、お願いを申し上げたいと思います。特にございませんか。今日はちょっと急きょの内容でお集まりをいただきましたので、ないようでございましたら本日予定しておりました議事につきましては、これで終了させていただきたいと思います。それでは進行を事務局の方にお願いいたします。

○事務局

本日の議題については、全て終了いたしました。

これをもちまして、令和７年度第１回高砂市総合教育会議を閉会いたします。本日は、どうもありがとうございました。